

| 特定行為区分 | 循環動態に係る薬剤投与関連 | 時間 | 28 | |
|--------|-----------------------------------|--|----|--|
| 特定行為名 | (A) 持続点滴中のカテコラミンの投与量の調整 | | | |
| | (B) 持続点滴中のナトリウム、カリウム又はクロールの投与量の調整 | | | |
| | (C) 持続点滴中の降圧剤の投与量の調整 | | | |
| | (D) 持続点滴中の糖質輸液又は電解質輸液の投与量の調整 | | | |
| | (E) 持続点滴中の利尿剤の投与量の調整 | | | |
| 学ぶべき事項 | (共通) 循環動態に係る薬剤投与関連の基礎知識 | 1. 循環動態に関する局所解剖 2. 循環動態に関する主要症候 3. 循環動態の薬物療法を必要とする主要疾患の病態生理 4. 循環動態の薬物療法を必要とする主要疾患のフィジカルアセスメント 5. 輸液療法の目的と種類 6. 病態に応じた輸液療法の適応と禁忌 7. 輸液時に必要な検査 8. 輸液療法の計画 | | |
| | (A) 持続点滴中のカテコラミンの投与量の調整 | 1. カテコラミン製剤の種類と臨床薬理 2. 各種カテコラミン製剤の適応と使用方法 3. 各種カテコラミン製剤の副作用 4. 病態に応じたカテコラミンの投与量の調整の判断基準（ペーパーシミュレーションを含む） 5. 持続点滴中のカテコラミン投与量の調整のリスク（有害事象とその対策等） | | |
| | (B) 持続点滴中のナトリウム、カリウム又はクロールの投与量の調整 | 1. 持続点滴によるナトリウム、カリウム又はクロールの投与の臨床薬理 2. 持続点滴によるナトリウム、カリウム又はクロールの投与の適応と使用方法 3. 持続点滴によるナトリウム、カリウム又はクロールの投与の副作用 4. 病態に応じた持続点滴によるナトリウム、カリウム又はクロールの投与の調整の判断基準（ペーパーシミュレーションを含む） 5. 持続点滴中のナトリウム、カリウム又はクロールの投与量の調整のリスク（有害事象とその対策等） | | |
| | (C) 持続点滴中の降圧剤の投与量の調整 | 1. 降圧剤の種類と臨床薬理 2. 各種降圧剤の適応と使用方法 3. 各種降圧剤の副作用 4. 病態に応じた降圧剤の投与量の調整の判断基準（ペーパーシミュレーションを含む） 5. 持続点滴中の降圧剤の投与量の調整のリスク（有害事象とその対策等） | | |
| | (D) 持続点滴中の糖質輸液又は電解質輸液の投与量の調整 | 1. 糖質輸液、電解質輸液の種類と臨床薬理 2. 各種糖質輸液、電解質輸液の適応と使用方法 3. 各種糖質輸液、電解質輸液の副作用 4. 病態に応じた糖質輸液、電解質輸液の調整の判断基準（ペーパーシミュレーションを含む） 5. 持続点滴中の糖質輸液、電解質輸液の投与量の調整のリスク（有害事象とその対策等） | | |
| | (E) 持続点滴中の利尿剤の投与量の調整 | 1. 利尿剤の種類と臨床薬理 2. 各種利尿剤の適応と使用方法 3. 各種利尿剤の副作用 4. 病態に応じた利尿剤の調整の判断基準（ペーパーシミュレーションを含む） 5. 持続点滴中の利尿剤の投与量の調整のリスク（有害事象とその対策等） | | |
| | (共通) 循環動態に係る薬剤投与関連の基礎知識 | 循環動態に係る薬剤投与に関連する基本的な知識を理解し、安全に薬剤投与を実践できる看護師を養成する。 | | |
| | (A) 持続点滴中のカテコラミンの投与量の調整 | 医師の指示の下、手順書により、身体所見（動悸の有無、尿量、血圧等）、血行動態及び検査結果等が医師から指示された病状の範囲にあることを確認し、持続点滴中のカテコラミン（注射薬）の投与量の調整を行う。 | | |
| | (B) 持続点滴中のナトリウム、カリウム又はクロールの投与量の調整 | 医師の指示の下、手順書により、身体所見（口渇や倦怠感の程度、不整脈の有無、尿量等）及び検査結果（電解質、酸塩基平衡等）等が医師から指示された病状の範囲にあることを確認し、持続点滴中のナトリウム、カリウム又はクロール（注射薬）の投与量の調整を行う。 | | |
| | (C) 持続点滴中の降圧剤の投与量の調整 | 医師の指示の下、手順書により、身体所見（意識レベル、尿量の変化、血圧等）及び検査結果等が医師から指示された病状の範囲内であることを確認し、持続点滴中の降圧剤（注射薬）の投与量の調整を行う。 | | |
| | (D) 持続点滴中の糖質輸液又は電解質輸液の投与量の調整 | 医師の指示の下、手順書により、身体所見（食事摂取量、栄養状態、尿量、水分摂取量、不感蒸泄等）等が医師から指示された病状の範囲内にあることを確認し、持続点滴中の糖質輸液、電解質輸液の投与量の調整を行う。 | | |
| | (E) 持続点滴中の利尿剤の投与量の調整 | 医師の指示の下、手順書により、身体所見（口渇、血圧、尿量、水分摂取量、不感蒸泄等）及び検査結果（電解質等）等が、医師から指示された病状の範囲内にあることを確認し、持続点滴中の利尿剤（注射薬）の投与量の調整を行う。 | | |

| | | |
|------|--|--|
| 到達目標 | 1. 医師の指示の下、手順書により、医療面接、身体所見及び検査結果等が医師から指示された病状の範囲にあることを確認し、持続点滴中のカテコラミンの投与量の調整ができるようになる。 | |
| | 2. 医師の指示の下、手順書により、医療面接、身体所見及び検査結果等が医師から指示された病状の範囲にあることを確認し、持続点滴中のナトリウム、カリウム又はクロールの投与量の調整ができるようになる。 | |
| | 3. 医師の指示の下、手順書により、医療面接、身体所見及び検査結果等が医師から指示された病状の範囲にあることを確認し、持続点滴中の降圧剤の投与量の調整ができるようになる。 | |
| | 4. 医師の指示の下、手順書により、医療面接、身体所見及び検査結果等が医師から指示された病状の範囲にあることを確認し、持続点滴中の糖質輸液又は電解質輸液の投与量の調整ができるようになる。 | |
| | 5. 医師の指示の下、手順書により、医療面接、身体所見及び検査結果等が医師から指示された病状の範囲にあることを確認し、持続点滴中の利尿剤の投与量の調整ができるようになる。 | |
| | 6. 手順書案を作成し、再評価、修正できる能力を養う。 | |
| | 7. 医師、歯科医師から手順書による指示を受け、実施の可否を判断するために必要な知識を養う。 | |
| | 8. 実施、報告の一連の流れが適切に行える。 | |
| 評価方法 | 講義：eラーニングの受講及び講義確認テスト | |
| | 演習：ペーパーシミュレーションによる演習及び模擬講義 | |
| | 試験：eラーニング上もしくは集合で修了試験を実施 | |
| 研修内訳 | 講義（23時間） | 視聴時間45分＋講義確認テスト15分 |
| | 演習（5時間） | 視聴時間（イントロ）5分＋グループワーク45分＋視聴時間（解説）10分 ※演習はeラーニング教材を活用して指定研修機関で行う |
| | 試験 | ※修了試験は指定研修機関ごとに時間・設問数など設定してご利用ください |

| 学ぶべき事項 | | 講師 | 所属 | 研修方法 | 通番 |
|-----------------------------------|--|-------|--|------|----|
| (共通) 循環動態に係る薬剤投与関連の基礎知識 | 循環動態に関する局所解剖 | 石黒 晴久 | 医療法人広正会 井上病院 理事長・循環器内科医師 | 講義 | 1 |
| | 循環動態に関する主要症候 | 弦切 純也 | 東京医科大学病院八王子医療センター救命救急部 | 講義 | 2 |
| | 循環動態の薬物療法を必要とする主要疾患の病態生理 | 弦切 純也 | 東京医科大学病院八王子医療センター救命救急部 | 講義 | 3 |
| | 循環動態の薬物療法を必要とする主要疾患のフィジカルアセスメント | 弦切 純也 | 東京医科大学病院八王子医療センター救命救急部 | 講義 | 4 |
| | 輸液療法の目的と種類 | 廣瀬 剛 | 東京医科大学八王子医療センター 腎臓内科 | 講義 | 5 |
| | 病態に応じた輸液療法の適応と禁忌 | 廣瀬 剛 | 東京医科大学八王子医療センター 腎臓内科 | 講義 | 6 |
| | 輸液時に必要な検査 | 廣瀬 剛 | 東京医科大学八王子医療センター 腎臓内科 | 講義 | 7 |
| | 輸液療法の計画 | 廣瀬 剛 | 東京医科大学八王子医療センター 腎臓内科 | 講義 | 8 |
| (A) 持続点滴中のカテコラミンの投与量の調整 | カテコラミン製剤の種類と臨床薬理 | 大島 一太 | 大島医院 院長/東京医科大学八王子医療センター循環器内科 兼任講師 /日本看護協会看護研修学校 非常勤講師 | 講義 | 9 |
| | 各種カテコラミン製剤の適応と使用方法 | 大島 一太 | 大島医院 院長/東京医科大学八王子医療センター循環器内科 兼任講師 /日本看護協会看護研修学校 非常勤講師 | 講義 | 10 |
| | 各種カテコラミン製剤の副作用、持続点滴中のカテコラミン投与量の調整のリスク (有害事象とその対策等) | 大島 一太 | 大島医院 院長/東京医科大学八王子医療センター循環器内科 兼任講師 /日本看護協会看護研修学校 非常勤講師 | 講義 | 11 |
| | 病態に応じたカテコラミンの投与量の調整の判断基準 (ペーパーシミュレーションを含む) | 大島 一太 | 大島医院 院長/東京医科大学八王子医療センター循環器内科 兼任講師 /日本看護協会看護研修学校 非常勤講師 | 演習 | 12 |
| (B) 持続点滴中のナトリウム、カリウム又はクロールの投与量の調整 | 持続点滴によるナトリウムの投与の臨床薬理、適応と使用方法、副作用、投与量の調整のリスク (有害事象とその対策等) | 富安 朋宏 | 東京医科大学八王子医療センター副医局長/腎臓内科 助教 | 講義 | 13 |
| | 持続点滴によるカリウムの投与の臨床薬理、適応と使用方法、副作用、投与量の調整のリスク (有害事象とその対策等) | 富安 朋宏 | 東京医科大学八王子医療センター副医局長/腎臓内科 助教 | 講義 | 14 |
| | 持続点滴によるクロールの投与の臨床薬理、適応と使用方法、副作用、投与量の調整のリスク (有害事象とその対策等) | 富安 朋宏 | 東京医科大学八王子医療センター副医局長/腎臓内科 助教 | 講義 | 15 |
| | 病態に応じた持続点滴によるナトリウム、カリウム又はクロールの投与の調整の判断基準 (ペーパーシミュレーションを含む) | 富安 朋宏 | 東京医科大学八王子医療センター副医局長/腎臓内科 助教 | 演習 | 16 |
| (C) 持続点滴中の降圧剤の投与量の調整 | 降圧剤の種類と臨床薬理 | 大島 一太 | 大島医院 院長/東京医科大学八王子医療センター循環器内科 兼任講師 /日本看護協会看護研修学校 非常勤講師 | 講義 | 17 |
| | 各種降圧剤の適応と使用方法 | 大島 一太 | 大島医院 院長/東京医科大学八王子医療センター循環器内科 兼任講師 /日本看護協会看護研修学校 非常勤講師 | 講義 | 18 |
| | 各種降圧剤の副作用、持続点滴中の降圧剤の投与量の調整のリスク (有害事象とその対策等) | 大島 一太 | 大島医院 院長/東京医科大学八王子医療センター循環器内科 兼任講師 /日本看護協会看護研修学校 非常勤講師 | 講義 | 19 |
| | 病態に応じた降圧剤の投与量の調整の判断基準 (ペーパーシミュレーションを含む) | 大島 一太 | 大島医院 院長/東京医科大学八王子医療センター循環器内科 兼任講師 /日本看護協会看護研修学校 非常勤講師 | 演習 | 20 |
| (D) 持続点滴中の糖質輸液又は電解質輸液の投与量の調整 | 糖質輸液、電解質輸液の種類と臨床薬理、適応と使用方法 | 小島 糾 | 東京医科大学八王子医療センター腎臓内科/八王子山王病院 | 講義 | 21 |
| | 各種糖質輸液、電解質輸液の副作用 | 小島 糾 | 東京医科大学八王子医療センター腎臓内科/八王子山王病院 | 講義 | 22 |
| | 持続点滴中の糖質輸液、電解質輸液の投与量の調整のリスク (有害事象とその対策等) | 小島 糾 | 東京医科大学八王子医療センター腎臓内科/八王子山王病院 | 講義 | 23 |
| | 病態に応じた糖質輸液、電解質輸液の調整の判断基準 (ペーパーシミュレーションを含む) | 小島 糾 | 東京医科大学八王子医療センター腎臓内科/八王子山王病院 | 演習 | 24 |
| (E) 持続点滴中の利尿剤の投与量の調整 | 利尿剤の種類と臨床薬理、適応と使用方法 | 大島 一太 | 大島医院 院長/東京医科大学八王子医療センター循環器内科 兼任講師 /日本看護協会看護研修学校 非常勤講師 | 講義 | 25 |
| | 各種利尿剤の副作用 | 大島 一太 | 大島医院 院長/東京医科大学八王子医療センター循環器内科 兼任講師 /日本看護協会看護研修学校 非常勤講師 | 講義 | 26 |
| | 持続点滴中の利尿剤の投与量の調整のリスク (有害事象とその対策等) | 大島 一太 | 大島医院 院長/東京医科大学八王子医療センター循環器内科 兼任講師 /日本看護協会看護研修学校 非常勤講師 | 講義 | 27 |
| | 病態に応じた利尿剤の調整の判断基準 (ペーパーシミュレーションを含む) | 大島 一太 | 大島医院 院長/東京医科大学八王子医療センター循環器内科 兼任講師 /日本看護協会看護研修学校 非常勤講師 | 演習 | 28 |